住まい活動助成

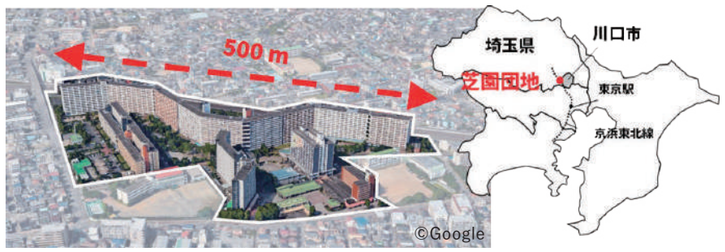
芝園かけはしプロジェクト

埼玉県川口市

外国人居住者が過半を占めるUR賃貸住宅における問題緩和と交流促進を進める学生主体の地域活動

学生が旗振り役となり、団地の住民が参加するワークショップ

UR川口芝園団地



団体設立経緯

芝園かけはしプロジェクトは、UR都市機構**川口芝園団地**（以下、芝園団地）で活動する、外部の学生ボランティアグループです。

芝園団地では外国人住民の増加に伴い、ゴミ出しや騒音などをめぐるトラブルや、日本人と外国人の交流の少なさが課題となっていました。このような課題を解決したいと考えていた自治会役員の方から団地のイベントに誘われた学生たちが、自分たちも団地を元気にするために何か貢献できないかと思い立ち、2015年に団体を設立しました。

活動概要と活動対象範囲

私たちは、埼玉県川口市にある芝園団地で活動をしています。芝園団地は1978年竣工、総戸数2454戸のUR賃貸住宅です。芝園団地では1990年代の後半から外国人住民が増加し、2020年現在、人口の半分以上が外国人住民です。文化や習慣の違いによるトラブルを小さくする〈**問題緩和**〉アプローチと、顔の見える関係形成に向けた住民間の接点をつくる〈**交流促進**〉アプローチにより、多文化・多世代の住民がともに安心して暮らせる地域づくりを目指しています。

活動に至った理由や背景

これまで〈問題緩和〉のため、外国人住民向けに生活ルールを伝える「芝園ガイド」を作成してきました。しかし「もっとわかりやすく、読みたくなるガイドにしたい」「外国人住民に対する注意ばかりにならないようにしたい」という思いから、ワークショップ（以下、WS）により、国籍や世代などに依らない方々の視点を取り入れた、新しいガイドをつくりたいと考えました。

また、〈交流促進〉のため定期的な交流イベントを開催してきましたが、参加者は「交流に関心がある人」だけでした。そこで、より幅広い方々が互いに関わり合える、多様な形式の接点づくりに取り組みたいと考えました。

新「芝園ガイド」の作成は、WS形式で参加者のニーズを取りまとめていった　（**左の写真**）2019年8月のキックオフ　（**右上の写真**）学生が積極的にファシリテート　（**右下の写真**）外国人住民も参加して、ガイドに掲載したい内容を提案

活動内容と成果

1.〈問題緩和〉住民の視点を取り入れた新「芝園ガイド」づくり

1-1.WSの構想（2019年6月～8月）

多様な方々の視点を取り入れて、わかりやすく、かつ読みたくなるガイドをつくるために、住民をはじめ地域内外の方々を対象にしたWSを開催することにしました。その際、ガイドの想定読者について、メンバー内で議論となりました。

もともとのガイドは、外国人住民向けに生活ルールを伝えることが主な役目でした。しかしWSを開催するに当たり、ガイドの対象を外国人住民に絞ると、①外国人住民に対する一方向的なガイドになること、②日本人住民に「関係がない」と思われること、③国籍や世代など関係なく一緒につくり上げよう、という雰囲気が損なわれること、が懸念されました。そこで新しいガイドづくりは、すべての住民の暮らしをサポートするものとし、みんなで一緒につくろうという雰囲気を大切にしたWSを開催する、という方向で始動しました。

1-2. WSの実施（2019年8月～2020年2月）

ガイドの内容（コンテンツ）と表現（使用言語、イラストの多さ、伝え方）を検討するWSを、計4回開催しました。

WSの企画と当日のファシリテーションは学生ボランティア、会場の場所取りは自治会が担当しました。WSの参加者はのべ80名ほどで、そのうち約半数が住民、残りの半分は外部からの参加でした。住民の参加者のうち約3分の1は外国人住民でした。

⑴第1回：キックオフ（2019年8月）

ガイドの周知、内容のアイデアの収集、今後のWS手法の検討を主な目的として、第1回WSを開催しました。当日は「知りたいこと、生活で困っていること、皆に紹介したいこと、地元の好きなところ」について、参加者に意見を出してもらいました。WSでは、どんな情報のニーズが高いのかを発見できたほか、参加者同士で情報をやり取りするコミュニケーションの場としての可能性も感じられました。

⑵第2回：内容の収集（11月）

第2回WSでは、より多くの参加者に来ていただき、第1回WSの方法を用いて、ガイドに載せたい内容の収集を試みました。参加者の意見は、最後、次のように「し・ば・ぞ・の」に整理できました【図1】。ガイドの内容だけでなく、暮らしの課題を共有し合うことができたことも成果で

【図1】第2回WSのまとめ

「し」らない人から顔のみえる関係へ
どんな人が住んでいるのか知りたい。知らない人をつなげる市民活動や居場所があったり、情報を知ったりできたらな。

「ば」んこく、いろいろな人が暮らせるルール
いろいろな人が、お互いにいい関係を築けるような決まりを知りたい。

「そ」うだんできるところ
困ったことがあったら、どこに相談すればいいの？ 相談場所がわかれば、いつでも、これからでも、対応できる。

い「の」ちの情報
防災、防犯、医療、ライフライン（電気ガス水道）など、生命にかかわる情報は、みんなにとって大切。

【図2】第3回WSのまとめ

や「さ」しい情報
注意をするにしても、やさしく伝えたい。ひらがなをつかうなど、やさしく伝えたい。

「し」ろう！ いろいろな文化の情報
いろいろな文化の習慣や食べ物を知りたい。

「す」まいの情報
芝園団地や近隣のこと、例えば、だれでもつかえるトイレの地図、近隣の診療所の地図、をのせたい。

「せ」いかつを助ける情報
言葉が不自由な人など、生活に不便をかかえる人がいる。そのような人をフォローするような情報があるといい。また、鳩の糞や生活の音などを防ぐためのグッズの情報ものせたい。

「そ」うだんできるところの情報
困ったことがあったとき、相談ができる場所や連絡先の情報をのせたい。また、芝園団地のUR管理サービス事務所に行けば、アドバイスがもらえたり、通訳さんと話したりできる。

4回にわたるWSを経て、ガイドに掲載する内容を絞り込んでいく

完成した「芝園団地のみんなの生活のヒント」。日常生活全般の困りごとと、団地での生活ルールを掲載。日・英・中の3言語で表記する

す。一方で、異なる文化・言語・習慣を持つ人々で意見交換をすることの難しさにも直面しました。

⑶第3回:内容の具体化（2020年1月）

第3回WSでは、〈問題緩和〉のうえで優先度が高いとの判断で、第2回WSのまとめの「ばんこく、いろいろな人が暮らせるルール」に絞り、内容の具体化を目指しました。話し合いの内容は、最後に「さ・し・す・せ・そ」にまとめられました**【図2】**。

もともと団地の生活ルールに絞るつもりでしたが、生活を助ける情報も必要性が高いとわかりました。国籍や世代などによって主な関心事が異なりながらも、「外国人住民に対する一方的な注意」のようにならず、違う人の視点に立って前向きな議論ができたことが印象的でした。

⑷第4回：表現の具体化（2月）

第4回WSでは、①各地のパンフレットを参考に、ガイドの大きさ・分量・使用言語を決定し、②ガイドのコンテンツを取捨選択し、③いくつかのコンテンツはその場で具体的なスケッチを作成しました。

話し合いの結果、大きくて見やすく、イラストを多用した冊子とすること、子育てに関する情報やUR管理サービス事務所の役割、ゴミの出し方などを取り上げることを決めました。第4回WSも、情報の伝え方を考える過程で、立場や関心の異なる人の視点に立ちながら話し合いができたことが、重要な成果だと考えています。

1-3. ガイドの完成（2020年2月〜3月）

4回にわたるWSの結果を踏まえて、学生ボランティアで新しいガイド「**芝園団地のみんなの生活のヒント**」を作成しました。「困った時に相談や連絡をする場所」と「芝園団地で暮らす方法（生活ルール）」の2部構成です。3500部を印刷し、団地内のUR管理サービス事務所の協力のもと、入居者への配布を始めました。

2.〈交流促進〉多様な形式の接点づくり

2-1. 交流イベント

これまでに続き、毎月、交流イベントを実施しました（4月：野菜スタンプ制作、5月：ハーバリウム制作、6月:書道体験、7月:科学実験、9月:世界の保存食体験、10月：ハロウィン、12月:クリスマス、8, 11, 1, 2月:芝園ガイドWSと併せたお話し会）。企画と当日の運営は主に学生ボランティアが担っています。

参加者はのべ300名ほどで、そのうち住民が約3分の2、加えて地域内外の方々も参加しました。外国人住民は親子での参加が多く、住民の参加者の3分の2以上は外国人住民でした。参加者同士が気軽にコミュニケーションしやすい雰囲気を大切にし、学生も人と人をつなぐ「かけはし」として間に入りながら、参加者同士のコミュニケーションも生まれました。

そろいのスタッフTシャツを着た学生ボランティアたち

毎月開催する交流イベントには、今期はのべ300人ほどが参加した。
（**上の写真**）ハロウィンイベント　（**下左の写真**）ハーバリウム制作　（**下右の写真**）書道体験

2-2. 交流イベントのお手伝いと反省会

参加者の方々とも一緒にイベントをつくるための仕組みの一環として、イベント後に参加型の反省会を毎回開催しました。人数こそ限られますが一部の参加者の方は、イベントのお手伝いや反省会への参加もしてくださいます。「学生や地域の活動に積極的に関わりたい」と表明してくださる方もいます。イベント中の一時的な関係ではなく、一緒に地域を元気にしたいという思いを共有する関係も、学生と住民、住民同士で生まれつつあります。

2-3. 芝園ガイドWS

芝園ガイドWSも接点のひとつとなりました。交流イベントには来ないがWSには来るという方もおり、楽しさや交流を中心としたイベントへの参加者とは、違う層に訴求した可能性を見出すことができました。

2-4. 居場所空間づくり

イベントやWSの一時的な機会だけでなく、近隣の空き店舗を活用して、より日常的に活動が生まれるような居場所空間がつくれないかと模索をしています。居場所空間のニーズを調査するためアンケートやWS内の意見を分析し、①団地内の診療所や喫茶店が閉院・閉店したため、気軽に過ごせたり交流したりできる場所、②外国人住民は、子どもを遊ばせたり親同士で知り合えたりできる場所、というニーズがあることがわかりました。

課題と解決方策

〈問題緩和〉の取り組みでは、WSで、異なる文化・言語・習慣を持つ人々で意見交換をすることの難しさに直面しました。今回は住民皆さんで一緒につくる雰囲気を大切にしたいと考えていたため、修復不能な言い争いや一方的な考え方の押し付けにつながりそうな言動は、なるべくファシリテーションで避けるようにしました。しかし、外国人住民の参加者が少なく、日本語が得意でないと意見しにくいなど、誰もが参加しやすく発言しやすい場づくりは課題として残りました。WSでは発言したくないという方もおり、WS以外の方法での意見収集も併用する必要があると考えています。

〈交流促進〉の取り組みでは、引き続き、より多くの方に来ていただけるような住民の接点づくりに努めます。同時に、居場所空間づくりの実現に向けた関係者との意見交換も、続けたいと考えています。

今後の予定

今後も、住民の方々が安心して暮らせて、顔の見える関係も築けるようになることを目指して、〈問題緩和〉と〈交流促進〉の取り組みを続けてまいります。芝園ガイドWSは、国籍や世代の違う方々が一緒に暮らしの課題を話し合う場面にもなりました。これもきっかけのひとつとしながら、学生と住民、住民同士、地域内外の方々がともに協力して、住みよい団地をつくっていきたいと考えています。

芝園かけはしプロジェクト

2015年2月設立／メンバー数：39人／代表者：圓山 王国（まるやま・おうこく）
●〒333-0853　埼玉県川口市芝園町3-15-1F　芝園団地自治会事務所
shibazonogakusei@yahoo.co.jp　shibazonokakehashi.org
www.facebook.com/shibazonokakehashiproject/

私たちは、外国人居住者が過半を占めるUR川口芝園団地で、文化や習慣の違いによるトラブルや相互不理解の解消を目指して、住民間の多様な接点づくりや、わかりやすい生活案内パンフレットづくりの取り組みを進めています。